



2011年4月1日～2011年9月30日



東洋紡績株式会社

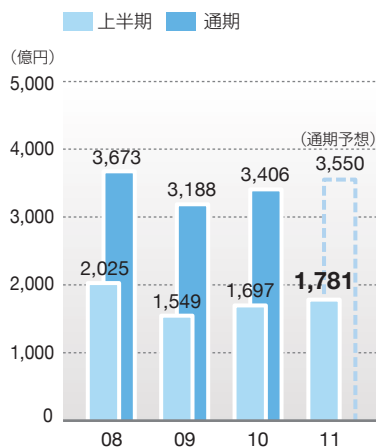


株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

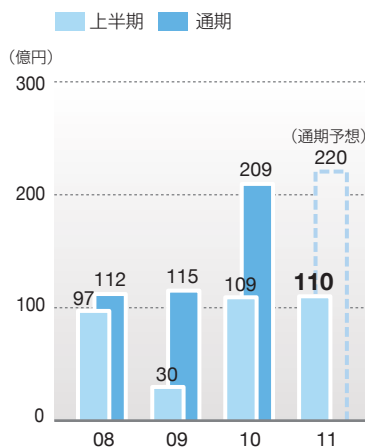
当第2四半期連結累計期間（2011年4月1日から2011年9月30日まで）における当社グループを取り巻く事業環境は、国内においては、東日本大震災によりサプライチェーンが大きな被害を受けましたが、当初の見通しよりも早期に復旧し、復興による回復の兆しも見られました。しかしながら、歴史的な円高水準による競争力の低下や個人消費の伸び悩みなどにより、景気は依然として厳しい状況にあります。世界経済においては、中国をはじめとしたアジア諸国が牽引し、全体としては緩やかながらも成長しましたが、長引く欧州の財政・金融危機問題や米国経済の減速感などにより、景気の先行き不透明感は強まりました。

このような事業環境のもと、当社グループは、「環境、ライフサイエンス、高機能で、新たな価値を提供するカテゴリトップ企業」をめざし、環境分野ではバイオマス原料を使った高融点ポリアミド樹脂、ライフサイエンス分野では血糖モニター用酵素

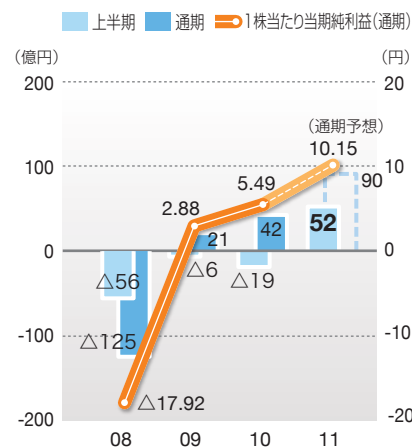
売上高



営業利益



当期純利益・1株当たり当期純利益



などの新製品の拡販に努め、高機能分野では、ペットボトル用シュリンクフィルム、タッチパネル用フィルム、セラミックコンデンサー工程用フィルムといった新製品の販売に注力しました。また、工業用、包装用の両用途に対応するハイブリッド型ポリエステルフィルム製造設備の新設や医薬品製造受託事業における注射剤製造設備の増強を決定するなど、スペシャルティ事業の拡大を進めております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績といたしましては、売上高は前年同期比84億円(4.9%)増の1,781億円となり、営業利益は同1億円(0.9%)増の110億円、経常利益は同12億円(13.4%)増の101億円、四半期純利益は同71億円増の52億円(前年同期は四半期純損失19億円)となりました。

中間配当につきましては、財務状況や財務体質の強化なども勘案して見送らせていただくことといたしました。

2011年度の連結業績につきましては、歴史的な円高水準の継続による悪影響、個人消費の伸び悩み、欧州・米国ほか海外の不安定な経済状況など、景気の先行きは不透明ですが、売上高3,550億円(前期比144億円増)、営業利益220億円(同11億円増)、経常利益190億円(同20億円増)、当期純利益90億円(同48億円増)を予想しています。

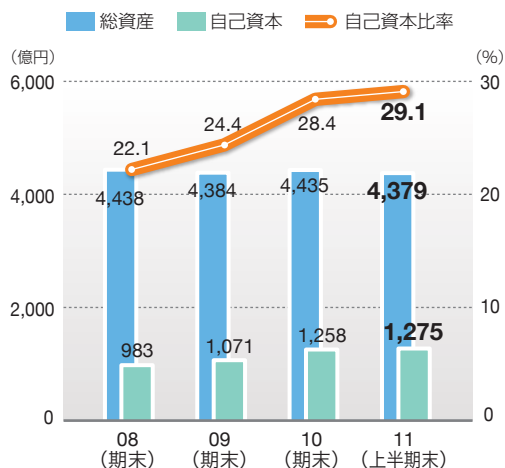
なお、当社の「ザイロン®」繊維を使用した防弾ベストに関する訴訟においては、当第2四半期連結累計期間中に、フロリダ州のポイント・ブランク・ソリューションズ社との訴訟において和解が成立しました。今後も一部の訴訟が残りますが、引続き相手側の主張が誤りであることを立証し、適切な防衛を行ってまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

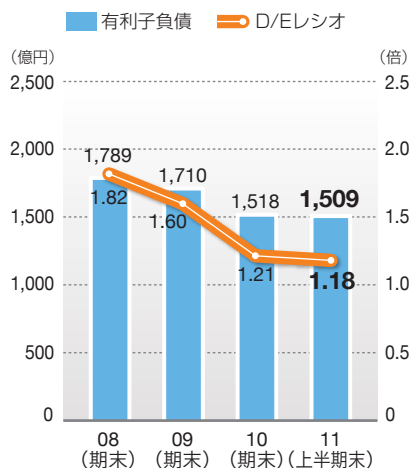
代表取締役社長

坂元龍三

総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ





2010年策定中計アクションプランと進捗状況

2010年5月に策定した2013年度までの「中期経営計画」では「不断のポートフォリオ改革」を経営方針として掲げ、成長性、収益性・効率性、安定性を重視し、強い東洋紡となることをめざし、能力増強、海外展開の加速、新製品開発による製品ポートフォリオ改革に徹底して取り組んでいます。

経営方針

1. 成長性 …………… スペシャルティ事業 年率8%以上の成長
2. 収益性・効率性 … ROA(営業利益／総資産)8%以上をめざす
3. 安定性 …………… 財務基盤を強化し、D／Eレシオ1.0倍をめざす

〈能力増強〉

設備投資やアライアンス、M&Aの検討によるスペシャルティ事業の能力増強を推進しています。2011年3月に海外募集による新株式発行での資金調達を行い、6月には、工業用、包装用の両用途に対応するハイブリッド型ポリエステルフィルム製造設備の新設を決定しました。また、医薬品製造受託事業では注射剤製造設備の増設を決定しました。

〈海外展開の加速〉

国内外のユーザーのグローバルな需要に対応するために、製造、販売の海外拠点の設立を進めるとともに、現地のニーズへ素早く対応できる開発機能の拡充を図っています。サウジアラビアにおいては、海水淡水化用逆浸透膜エレメントの製造・販売の合併会社を設立し、2012年より生産を開始いたします。中国では、豊田通商株式会社と合弁で、エアバック用基布の製造・販売会社を設立し、2012年春の生産開始をめざしています。

〈製品ポートフォリオ改革〉

新製品の開発では、製品開発の過程でユーザーとの対話を重視し、より求められるサービスを提供できるように進めています。また、知的財産などを含めて外部の技術を積極的に取り入れて開発を加速しています。

NEWS RELEASE

ニュースリリース

2011年度上半期

4月 April

- 診断システム事業で、協和メディックス株式会社と共同事業契約を締結
当社が開発した全自動遺伝子解析装置「GENECUBE®」の販売において、
協和メディックス株式会社と共同事業契約を締結しました。
- 塩素化ポリプロピレン生産設備増設について
自動車バンパーの下塗りやインキのバインダーとして使用される塩素化ポリプロ
ピレン生産設備の増設を行い、生産能力を1.5倍に拡大します。
- 中国にエアバック用基布の製造・販売会社を設立
エアバック用基布の製造・販売会社を豊田通商株式会社と合併で中国江蘇省に
設立しました。2012年春をめどに生産を開始する予定です。

6月 June

- ポリエステルフィルム製造設備の新設について
工業用、包装用の両用途に対応するハイブリッド型ポリエステルフィルム
製造設備を新設することを決定しました。

7月 July

- 医薬品製造受託における注射剤製造設備の増設について
バイオ医薬品市場の拡大に対応するために注射剤製造設備を増設することを
決定しました。

8月 August

- 東洋紡バイオロジックス株式会社が、抗体医薬の高生産技術を取得

東洋紡バイオロジックス株式会社が 抗体医薬の高生産技術を取得

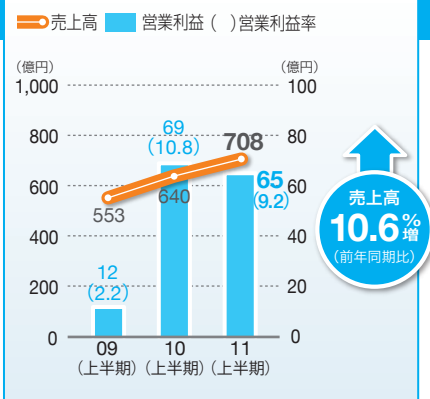
当社の子会社である東洋紡バイオロジックス株式会社(以下「TBI」)は、米国のキャタレント・ファーマ・ソリューションズ社(以下「キャタレント社」)が独占的に保有する細胞株構築技術である「GPEX®テクノロジー」を利用し、抗体医薬を含むバイオ医薬品の開発・製造受託事業を拡大するため、キャタレント社と8月に共同事業契約を締結しました。今後は、細胞株構築技術とTBIの細胞培養技術を統合することにより、競争力のある高生産細胞株の開発・製造体制を構築し、バイオ医薬品の受託製造事業をグローバルに拡大することをめざします。

事業セグメント別営業利益



Films & Functional Polymers

フィルム・機能樹脂事業



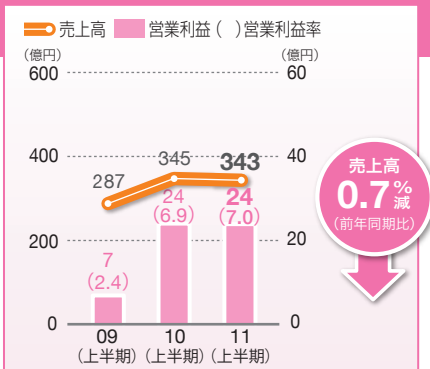
当事業は、食品包装分野は順調に推移しましたが、液晶分野でのユーザーの減産影響や、自動車分野でのユーザーの震災影響により、前年同期と比べ、増収、減益となりました。

フィルム事業では、食品包装用フィルムは売上を伸ばしました。工業用フィルムは、スマートフォン関連の市場拡大にともない、タッチパネル用フィルム、セラミックコンデンサー工程用フィルムなどは堅調に推移しましたが、液晶パネル関連でのユーザーの生産調整の影響を受けました。

機能樹脂事業では、工業用接着剤「バイロン®」は、第2四半期後半において一部の海外の電子材料用途で在庫調整の影響を受けましたが、全般的には需要が堅調に推移し、増収となりました。エンジニアリングプラスチックは、自動車分野における主力ユーザーの減産により、苦戦しました。アクリル系樹脂は吸水性などの機能性微粒子が売上を伸ばし、ペットボトル用樹脂は数量が好調に推移しました。

Industrial Materials

産業マテリアル事業

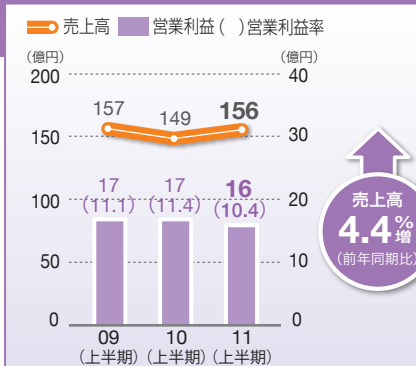


当事業は、東日本大震災の影響を受け自動車分野では数量が減少しましたが、環境関連分野が好調に推移したことから、前年同期と比べ、減収、増益となりました。

エアバッグ用基布は、第2四半期から数量が回復しましたが、前年同期比では減収となりました。超高強度ポリエチレン繊維「ダイニーマ®」は、震災の影響もありましたが、数量は堅調に推移しました。フィルター分野では、空調用フィルターが好調に推移するとともに、アジア地域の環境規制の流れを受けて、VOC処理装置が売上を大幅に伸ばしました。また、海外の火力発電所等の粉塵回収に使用されるバグフィルターは、需要が堅調に推移しました。

Life Science

ライフサイエンス事業

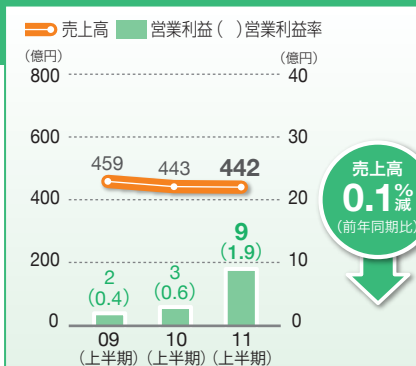


当事業は、バイオ事業、メディカル事業、機能膜事業とも好調に推移しましたが、前年同期に比べ、増収、減益となりました。

バイオ事業では、円高の環境要因もありましたが、輸出を中心に主力製品である診断薬用酵素で売上を伸ばしました。メディカル事業においては、医薬品製造受託事業の受注が堅調に推移しました。機能膜事業においては、医用膜は、国内向けを中心に売上を伸ばしました。アクア膜は、国内外の既存プラントの交換膜出荷が好調に推移しましたが、為替の影響を受けました。ファインケミカル事業では、合成薬中間体の数量が減少しました。

Textiles

衣料繊維事業



当事業は、前年同期に比べ、減収、増益となりました。

アパレル製品事業は、スポーツアパレル向けは売上を伸ばしましたが、百貨店向け製品が震災の影響により苦戦しました。インナー事業は、機能素材を中心に順調に数量を拡大しました。テキスタイル事業では、ユニフォームは順調に売上を伸ばしましたが、中東向けの特化生地は、数量は堅調に推移したものの、円高の影響を受け苦戦しました。アクリル繊維「エクスラン®」は、国内外ともに特化素材の需要が旺盛で、数量は堅調に推移しました。

Others

不動産事業／その他事業

売上高	営業利益	営業利益率
132 億円	11 億円	8.7 %

当事業では、不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

なぜ、あったかく感じるの？

節電対策が求められた夏に続き、冬も節電対策が必要になることが予想されます。

当社グループ（東洋紡スペシャルティズトレーディング株式会社、日本エクスラン工業株式会社）では、節電に一役買うウォームビズ素材を開発しており、そのあったか機能の仕組みについて紹介します。

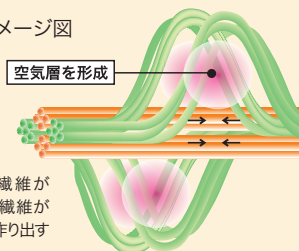
保温素材は一般的に3つの効果に大別されます。

1 断熱効果

最も断熱に優れたものは熱伝導率の低い空気といわれています。繊維の間に多くの空気層を作り出すことで、断熱保温効果を高めることができます。

例えば、空気層をたくさん作るために、二種類以上の収縮差のある繊維を使用して、多くの空気層のあるバルキー糸（図参照）にしたり、糸の真ん中が空洞である中空糸を使用したりします。

バルキー糸の構造イメージ図



熱を加えることで繊維が収縮し、収縮しない繊維が立ち上がり空気層を作り出す

2 遠赤外線効果

遠赤外線が物体に当たるとその物の分子などを振動させて熱を発生させます。遠赤外線を吸収および再放射しやすいセラミックスなどの物質を、化学繊維の内部に練り込んだり、天然繊維では繊維の外部にコーティングを施したりして、元の繊維よりも遠赤外線に対して吸収・再放射特性を高めるなど、保湿性を向上させるための加工を行います。

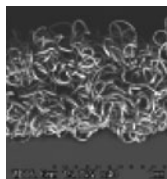
3 吸湿発熱効果

人間は常に目に見えない汗を排出しています。その気体の汗（湿気）を繊維が吸着することで、熱（吸着熱）を発生させることができるため、人は温かさを感じるようになります。

軽量断熱素材

「デッドエア®」

高撓縮マルチポリエステルフィラメント加工糸を使用して、膨らみ感を出すことで、パルキー性と温かみのある触感、保温性やストレッチ性に優れた生地です。主にスポーツ製品に採用されています。



「デッドエア®」



従来品



展示会に使用した試作品

当社グループの代表的な「あったか素材」

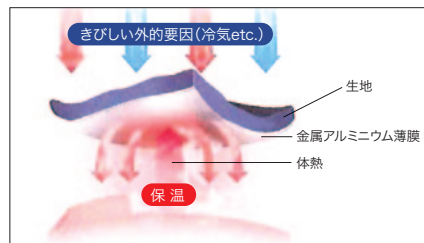


衣類の内側に使われている「メタルギア®」

熱線反射保温素材

「メタルギア®」

特殊加工技術により、生地裏面に金属アルミニウム薄膜を均一に附着させることで身体からの熱線(赤外線)を反射して逃さないため、保温性に優れている生地です。主にスポーツ製品や寝装品に採用されています。



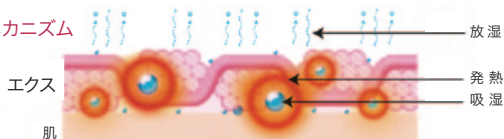
熱線反射保温のイメージ

吸湿発熱繊維

「エクス®」

吸湿発熱というカテゴリーは「エクス®」から生まれたといっても過言ではありません。繊維自身が発熱して身体を温めます。水分を取り込む力は、他の繊維より群を抜いて高く、ムレ感のないドライな温かさが体感できます。主にインナー素材に多く採用されています。

「エクス®」のメカニズム





樹脂の原料を変える

多彩な植物由来素材を実用化

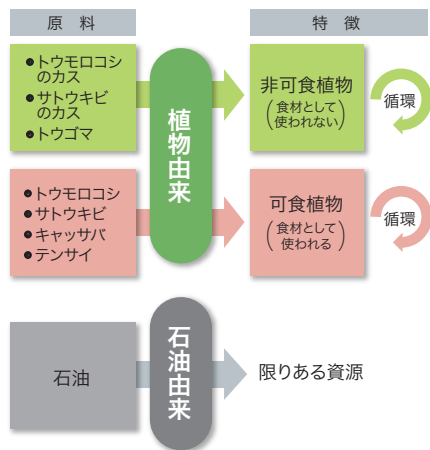
石油を原料とした素材は資源に限りがあり、焼却処分時に多くのCO₂が発生します。植物由来素材は、このようなリスクを低減することができます。石油の代替素材としてその活用に関心が高まってきています。当社では、長年培った高分子分野の技術を活用し、植物由来素材の研究開発に取り組んできました。そして、ポリエチレンテレフタレート（PET）樹脂を使った製品やポリアミド樹脂などで植物由来の樹脂原料を実用化し、製品化へ結びつけています。



サトウキビ



「バイオバランス®」
が使用されている
カーマット



1

サトウキビ由来の原料を使う

「PETフィルム」「熱収縮フィルム」
「バイオバランス®」

ペットボトルなどに使われるポリエチレンテレフタレート。当社では、その原料のひとつであるエチレングリコールを石油からサトウキビ由来へ置き換えたPET製品の販売を開始しています。原料の一部を植物由来にすることで、化石資源の消費が抑えられ、地球温暖化にも貢献できると考えています。

2010年、当社では植物由来原料を使用したPET製品として、食品包装などに使用する「PETフィルム」をはじめ、ペットボトル・缶飲料・ガラス瓶など各種容器のラベル素材として使用できる「熱収縮フィルム」の生産が可能になりました。2011年には、「バイオバランス®」の商標でスパンボンドへの展開を開始し、生活資材や自動車資材、土木資材への用途が期待されています。



トウゴマ

携帯電話のカメラの
部品として採用されている
「バイロアミド®」



2

トウゴマ由来の原料を使う 「バイロアミド®」

耐熱性・耐油性・強度（機械的特性）に優れ、さまざまな製品に使われるポリアミド樹脂。当社が2011年4月から本格的な生産を開始した「バイロアミド®」は、トウゴマという非可食（食用でない）植物が原料で、石油などの化石資源と比べて短いサイクルで再利用が可能です。「バイロアミド®」の融点は、315℃で、従来の高融点ポリアミドと比較しても最高レベルです。また、吸水率も従来のポリアミド樹脂の3分の1程度にできるため、寸法変化によりポリアミド樹脂の使用が難しかった用途にも使用ができます。こうした特性から、電気・電子部品や自動車関連部材の耐熱素材など、幅広い分野での活用が期待され、すでに携帯電話の部品に採用されています。今後もグローバルで積極的な展開を図ります。

3

生分解性も備えたインキ、 接着剤、塗料用樹脂 「バイロエコール®」

ポリ乳酸樹脂は、もっとも一般的な植物由来の樹脂の一つで、地中の微生物などにより分解される生分解性も備えています。当社では、長年培った重合技術を駆使して、世界に類を見ない非結晶性のポリ乳酸樹脂「バイロエコール®」を開発しています。「バイロエコール®」は、一般的な溶剤に溶け、インキ、接着剤、塗料用の樹脂として使用できます。



グリーンプラマークにも
認証されています。



■ 四半期連結貸借対照表

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当上半期末 (2011年9月30日現在)	前期末 (2011年3月31日現在)
資 産 の 部		
流 動 資 産	百万円 171,246	百万円 172,001
現 金 及 び 預 金	12,163	22,014
受取手形及び売掛金	73,455	72,647
商 品 及 び 製 品	44,878	38,794
仕 掛 品	14,663	13,803
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	14,462	13,391
そ の 他	11,860	11,668
貸 倒 引 当 金	△234	△316
固 定 資 産	266,617	271,515
有 形 固 定 資 産	201,163	203,751
建物及び構築物(純額)	47,068	47,510
機械装置及び運搬具(純額)	36,233	37,026
土 地	106,799	106,949
そ の 他 (純 額)	11,064	12,267
無 形 固 定 資 産	1,716	1,872
投 資 そ の 他 の 資 産	63,737	65,892
そ の 他	65,158	67,341
貸 倒 引 当 金	△1,421	△1,450
資 産 合 計	437,863	443,516

科 目	当上半期末 (2011年9月30日現在)	前期末 (2011年3月31日現在)
負 債 の 部		
流 動 負 債	百万円 164,369	百万円 163,444
支払手形及び買掛金	51,903	49,068
短 期 借 入 金	51,011	49,870
1年内返済予定の長期借入金	25,757	26,990
引 当 金	4,290	4,276
そ の 他	31,407	33,239
固 定 負 債	128,802	130,299
社 債	15,000	15,000
長 期 借 入 金	52,708	52,990
退 職 給 付 引 当 金	16,614	15,867
役員退職慰労引当金	385	435
環 境 対 策 引 当 金	1,076	1,085
そ の 他	43,020	44,923
負 債 合 計	293,171	293,743
純 資 産 の 部		
株 主 資 本	100,976	98,876
資 本 金	51,730	51,730
資 本 剰 余 金	32,227	32,227
利 益 剰 余 金	17,582	15,481
自 己 株 式	△563	△562
その他の包括利益累計額	26,559	26,894
その他有価証券評価差額金	△299	305
繰延ヘッジ損益	△183	△159
土地再評価差額金	38,120	38,132
為替換算調整勘定	△11,079	△11,384
少 数 株 主 持 分	17,157	24,003
純 資 産 合 計	144,692	149,773
負 債 純 資 産 合 計	437,863	443,516

■ 四半期連結損益計算書

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当上半期累計 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)
	百万円
売上高	178,121
売上原価	139,314
売上総利益	38,807
販売費及び一般管理費	27,760
営業利益	11,047
営業外収益	2,575
その他	2,575
営業外費用	3,480
支払利息	1,051
退職給付会計基準変更時差異の処理額	786
その他	1,643
経常利益	10,142
特別利益	131
固定資産売却益	97
有価証券売却益	34
特別損失	1,595
訴訟関連損失	1,124
その他	471
税金等調整前四半期純利益	8,678
法人税等	2,711
少数株主損益調整前四半期純利益	5,967
少数株主利益	768
四半期純利益	5,199

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円未満四捨五入表示)

科 目	当上半期累計 (自 2011年4月1日 至 2011年9月30日)
	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,597
税金等調整前四半期純利益	8,678
減価償却費	9,460
支払利息	1,051
売上債権の増減額(△は増加)	△930
たな卸資産の増減額(△は増加)	△7,975
仕入債務の増減額(△は減少)	3,069
その他	△2,861
小計	10,493
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△896
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,154
有形及び無形固定資産の取得による支出	△6,942
その他	788
財務活動によるキャッシュ・フロー	△13,430
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,141
長期借入れによる収入	11,300
長期借入金の返済による支出	△12,818
優先出資証券の買入消却による支出	△7,242
配当金の支払額	△3,085
利息の支払額	△1,119
その他	△1,607
現金及び現金同等物に係る換算差額	65
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△9,921
現金及び現金同等物の期首残高	21,927
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,006

事業内容

フィルム・機能樹脂事業

包装用フィルム、工業用フィルム、工業用接着剤、エンジニアリングプラスチック、光機能材料 等

産業マテリアル事業

自動車用繊維資材、スーパー繊維、機能フィルター、不織布 等

ライフサイエンス事業

診断薬用酵素等のバイオ製品、医薬品、医用膜、医療機器、アクア膜(水処理用膜) 等

衣料繊維事業

機能衣料、アパレル製品、衣料テキスタイル、衣料ファイバー 等

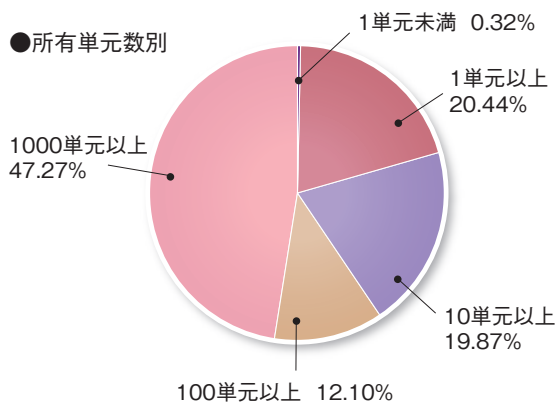
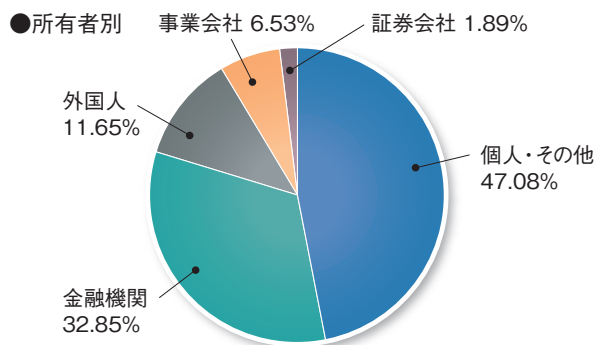
不動産事業／その他事業

不動産の賃貸・管理、建物・機械等の設計・施工、情報処理サービス、物流サービス 等

株式の状況

(2011年9月30日現在)

■発行可能株式総数	2,000,000,000株
■発行済株式の総数	890,487,922株 (自己株式1,879,865株含む)
■株主数	102,728人
■株式分布の状況	

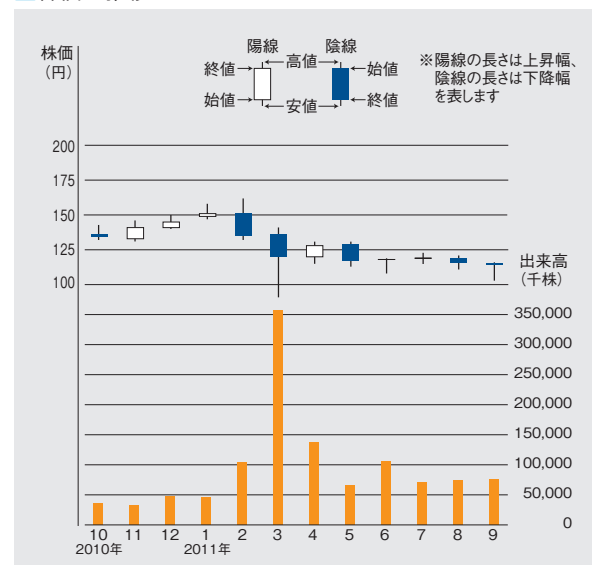


大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	42,217	4.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	38,811	4.37
日本生命保険相互会社	21,885	2.46
東友会	14,796	1.67
株式会社みずほコーポレート銀行	13,393	1.51
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,214	1.49
株式会社三井住友銀行	13,034	1.47
東洋紡績従業員持株会	11,844	1.33
明治安田生命保険相互会社	11,029	1.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	10,335	1.16

(注)持株比率は、自己株式(1,879,865株)を控除して計算しております。

株価の推移



(注)最高・最低株価、出来高は、東京証券取引所市場第一部におけるものです。

(2011年9月30日現在)

社名	東洋紡績株式会社
英文社名	TOYOBO CO., LTD.
証券コード	3101
創立	1882年(明治15年)5月3日
設立	1914年(大正3年)6月26日
資本金	51,730,003,166円
本社	大阪市北区堂島浜二丁目2番8号 (代表 06-6348-3111)
東京支社	東京都品川区東五反田二丁目10番2号
名古屋支社	名古屋市中区栄三丁目2番3号
従業員数	連結 9,980名 単体 3,231名

■ホームページのご案内

URL <http://www.toyobo.co.jp/>



■関係会社

	国内	海外	計
連結子会社	37	16	53
持分法適用会社	7	4	11
計	44	20	64

■役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役社長	社長執行役員	さかもと	りゅうぞう
		坂元	龍三
代表取締役	専務執行役員	はやし	けんじ
		林	健治
代表取締役	専務執行役員	みよし	ふみあき
		三好	文章
取締役	常務執行役員	かがわ	ひろゆき
		香川	裕行
取締役	常務執行役員	くり	かずお
		栗田	和夫
取締役	執行役員	せきの	まさあき
		関野	政昭
取締役	執行役員	こうやま	かずまさ
		香山	和正
取締役	執行役員	たかはし	ひろし
		高橋	寛
取締役	執行役員	ならはら	せいじ
		檜原	誠慈
取締役	*注1	おぎむら	みちお
		荻村	道男
監査役(常勤)		やぶき	かずゆき
		矢吹	和之
監査役(常勤)		しもみち	せつお
		下道	節男
監査役*注2		にしうら	ひろし
		西浦	洋
監査役*注2		いまなか	ひろし
		今中	博

(注1) 取締役のうち荻村道氏は社外取締役であります。

(注2) 監査役のうち西浦洋氏および今中博氏は社外監査役であります。

株 主 メ モ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
(期末の配当金受領株主確定日 3月31日)

定時株主総会 6月に開催いたします。

基準日 定時株主総会の基準日は3月31日といたします。
その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。

単元株式数 1,000株

公告掲載ホームページアドレス

<http://www.toyobo.co.jp/>
電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社

同事務取扱場所 〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目2番21号
中央三井信託銀行株式会社 大阪支店証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の本店
および全国各支店ならびに日本証券代行株式会
社の本店および全国各支店で行っております。

単元未満株式(1~999株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、売却または1,000株におまとめたいただくことができます。ぜひ、以下の制度をご利用ください。

**買取
制度**

単元未満株式の買取を請求する。

**買増
制度**

単元株式(1,000株)にするため、
不足する株数の株式の売り渡しを請求する。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

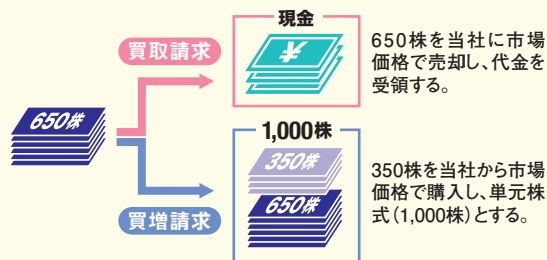
区 分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主様	株主様の口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主様 (下の区分を除く)	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 (左記、照会先をご参照ください。)
御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた特別口座の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話0120-232-711 (フリーダイヤル)

※証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。なお、平成21年9月1日付、当社と御幸ホールディングス株式会社との株式交換により当社株主となられた場合は、御幸ホールディングス株式会社において特別口座が開設された三菱UFJ信託銀行株式会社にお申し出ください。

- 未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申し出ください。

(例) 当社株式650株をお持ちの場合



お手続方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。